令和6年度 心を育む学校給食週間の取組み

◆実施校数：338校

学校給食を実施している小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校

◆実施内容

「こころ」づくり	食の背景に広がるいのちのつながりに気づく
	食に関する文化を理解し、作法を身につける

【取組みの特徴】

お世話になっている生産者との交流給食や地域の方と一緒に伝統行事を体験するなどにより、食の背景に広がるいのちのつながりに気づき、感謝の気持ちをもってその思いをあいさつや態度にこめるという取組みが多かった。また、学校給食の歴史を調べたり、学校給食に携わる人たちにインタビューしたりして得た情報を発表する等、児童生徒が主体となった取組みがみられた。

～「1食の給食にかかわる人たち」の掲示（金山町立金山小・金山中学校）～

「こころ」づくり（豊かな心の育成、社会性の涵養）取組事例

学校名	山形市立明治小学校
実施期間	令和７年１月 14 日（火）～１月 20 日（月）

【学校行事】

○小正月の伝統行事「だんごさし」（１年生）

小正月の伝統行事を知り、暮らしの中に息づく人々の願いや思いに触れることをねらいに、地域の方と一緒に「だんごさし」を体験した。

◎成果

実際に自分の手でだんごを作ったり、活動の中で地域の方々からその由来や込められた願いを教えていただいたりしたことで、食文化に触れながら食べ物への感謝の気持ちを持つことができた。

学校名	山形市立高瀬小学校
実施期間	令和６年９月９日（月）～９月 13 日（金）

【委員会活動】

○ワクワク給食週間の実施

給食委員会の活動として、「一人一人が栄養のことを考え、苦手なものでもチャレンジして自分の力を出し切ろう」というねらいのもと、個々のペースで９つのめあてにチャレンジする「ワクワク給食週間」を実施し、全児童参加のめあて達成ビンゴに取り組んだ。

◎成果

「ワクワク給食週間」は、学級単位で残量を減らすことではなく、個々のペースで９つのめあてにチャレンジできる内容にした。「今日は全部食べられそうだから、完食達成のマスにチャレンジしよう。」「苦手な野菜を半分食べたから、苦手克服のマスに印をつけられるぞ。」と、それぞれが自分で考えながらめあてに向き合うことができた。

学校名	山形市立第三中学校
実施期間	令和６年 10 月 21 日（月）～10 月 25 日（金）

【生徒会活動】

○「山形の郷土料理を知り、豊かな食材に感謝しよう」

SDGｓ目標 14（海の豊かさを守ろう）と 15（陸の豊かさも守ろう）を関連させ、地元食材の良さや郷土愛を考え、放送で伝えた。その日の献立に使用された県産・市産食材を紹介し、地元の食材を消費することは、食品ロス削減や環境への配慮となることの理解を図った。

○「世界の現状を知り、自分たちにできることを考えよう」

SDGｓ目標１（貧困をなくそう）と２（飢餓をゼロに）を関連させ、自分の学級や全校の残食量の実態を知り、食品ロスについて関心を高めた。

学校名	上山市立宮川小学校
実施期間	令和６年 12 月６日（金）～12 月 18 日（水）

【学校給食の充実・地域との連携】

〇「干し柿給食」

地域の特色ある食材の一つである「干し柿」を使った給食を提供する時期に合わせて、事前に４年生の総合的な学習の時間に、地域の方と一緒に干し柿づくりを行った。給食で提供された際には、自分たちが体験した作り方や地域の方のお話を思い出しながら食べ、地域の方と一緒に食文化を理解することができた。

学校名	大江町立左沢小学校
実施期間	令和６年 12 月２日（月）～12 月６日（金）

【学校給食の充実】

〇ヤマガタダイカイギュウ丼（ぷくちゃん丼）

大江町で見つかったヤマガタダイカイギュウの化石は、復元された姿がぷっくりとしていて「ぷくちゃん」と名付けられ親しまれている。みんなが大好きな「ぷくちゃん」を「自分で作って食べよう！」をテーマにキャラ丼として給食で提供した。

牛丼の上にぽてっとした口まわりをハム、目を黒豆、鼻の穴をコーン、ヒゲをたけのこで表し、自分だけの「ぷくちゃん」を作った。自分で盛付けて作った「ぷくちゃん丼」は、一人ひとり個性豊かで、楽しく食べることができた。

【地域との連携】

〇いのちの学習

６年生を対象に山川牧場の山川喜一さんから「いのちのつながり」についての講話をいただいた。「いのちの学習」を通して、食べることはいのちをいただくこと、食肉になる動物たちのいのちを人間が短くさせていることなどを知り、驚きもあったようだ。大切ないのちに感謝し無駄にせず、給食も残さず食べるという気持ちが強くなった。

学校名	大蔵村立大蔵小学校
実施期間	令和７年１月 14 日（火）～１月 21 日（火）

【食育の充実】

〇絵本の給食

読書好きの児童が多いことから、絵本に出てくる料理を給食で提供した。図書ボランティアの方々に協力していただき、特設コーナーも設置した。

◎成果

大好きな本に書いてある料理が給食として提供されることを知らせると児童らは楽しみにしていた。また、この料理を紹介する際、調理師が手間を惜しまず作ってくれたことを放送で伝えた。このことによって児童が食に関する事について興味・関心を高め、調理師への感謝の気持ちを伝えることが出来ていた。

学校名	真室川町立真室川中学校
実施期間	令和６年 11 月 18 日（月）～11 月 22 日（金）

【学校給食の充実】

〇おいしいふるさと給食　真室川の秋のごちそうランチ（もがみ中央農協の方との交流）

真室川町食の教育大使である野菜ソムリエプロ緒方湊さんが監修した、甚五右ヱ門芋、赤にんにく、とっくりカブなどの町の伝承野菜や、町内産の牛肉を生かしたメニューを味わった。食材を集荷しているもがみ中央農協の方に来校していただき、会食交流を行った。７月の豪雨災害による農業への影響や復旧の状況、農家や地場産物に携わるうえでの想いなどについて生徒給食委員会がインタビューを行い、後日各クラスで視聴した。

◎成果

真室川町の取組みとして年に３回の「おいしいふるさと給食」を実施している。小学生の頃から町の特産品や伝承野菜に親しんでいることが、中学校でのふるさと学習（総合学習）に生かされている。7 月の豪雨災害では、町内の農業にも大きな被害が出た。農協の方からその実態を聞き、復旧の状況や、生産者や農業に携わる方々の思いを知ることができ、大変貴重な機会となった。

学校名	高畠町立和田小学校
実施期間	令和６年 12 月２日（月）～12 月６日（金）

【地域との連携】

〇自給野菜組合長の講話・自給野菜給食

和田地区で 50 年以上続く自給野菜の取組みを学び、自給野菜をふんだんに使用した献立を給食で提供することで、手間暇かけた有機農法で作った野菜であることを学ぶことができた。

〇体験活動（３，４年生）

３年生は大豆を育てみそを作る、４年生はゆうきの里祭りでのみそ販売など、各学年で農産物の栽培や収穫等を行い、食に携わる方々の思いを体験し、食文化や地元の自給野菜についての理解を深めることができた。

←３年生
大豆の収穫
（みそづくりは２月）

←４年生
みそをパックに詰める作業

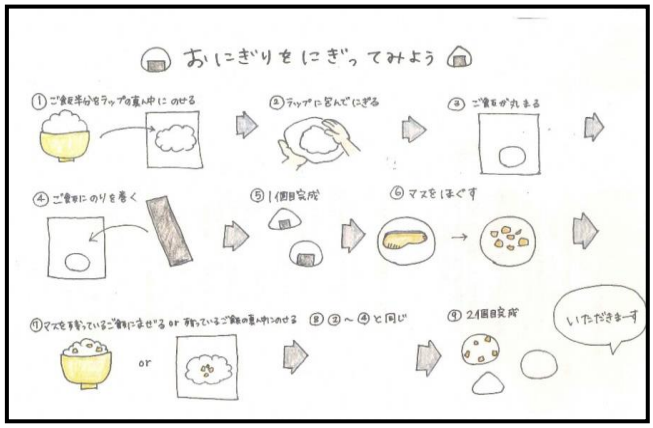
＜米沢市立北部小学校　給食室前掲示板より＞

学校名	南陽市立赤湯小学校
実施期間	令和６年 12 月２日（月）～12 月６日（金）

【食育の充実】

〇おにぎり給食の実施

学校給食が始まった頃の給食「おにぎり給食」を提供し、食文化への興味関心を高めた。加えて６年生はセルフおにぎり給食を実施し、災害時の衛生管理の重要性や支援する立場になった時、自分でできることを行動に移せるように意識を高めた。



◎成果

・全校児童が食材の納入業者や調理師へ手紙を書くことで、日頃の献立に興味をもったり感謝の気持ちをもって食べようという気持ちが高まったりした。また、その手紙を掲示という形で全校生が交流したことで、日々の給食に感謝しようという思いを共有することができた。

・１年に１回の「昔の給食（おにぎり給食）」で給食について考えるきっかけとなった。給食のはじまりを知ったり、現在の給食のありがたさに気づくきっかけになったりした。また、６年生は自分でおにぎりを握ることで、衛生面やどうすると握りやすいか、食べやすいか考えるきっかけとなった。

・委員会活動の位置づけとしたことにより、災害を考えるきっかけとして、全学年で実施するのがよいのでは、という給食委員からの意見が出た。

学校名	南陽市立漆山小学校
実施期間	令和６年 12 月２日（月）～12 月６日（金）

【学級活動】

○学級指導（全学級で学活の時間に実施）

・「いただきます」「ごちそうさま」の意味やあいさつの大切さ　・給食のはじまり

・様々な生き物の「いのち」をいただいていることや、たくさんの方々に支えられていることへの感謝　・よくかんで食べよう　・マナーについて（はしの持ち方、食べる時の姿勢等）

○動画視聴

給食センターの栄養教諭と調理師さんへのインタビュー動画を視聴

○感謝のメッセージ作成・贈呈

給食に携わっている方々（給食センター、パン屋、牛乳屋）への感謝のメッセージを作成して贈呈

○掲示

給食に関する掲示「給食の移り変わり」「いろいろな人のおかげで作られている給食」

○絵本や紙芝居の読み聞かせ

各学級での担任による食育に関する絵本や紙芝居の読み聞かせ

◎成果

・給食週間を通して、給食センターの方々や業者の方をはじめとする給食に携わるすべての人や「いのち」をいただく食材に感謝する気持ちを持つことができた。また、「いただきます」「ごちそうさま」の意味について、改めて考えることができた。

・給食センターの栄養教諭や調理師さんのインタビュー動画視聴では、日頃どんなことにどれくらい気を付けているのか、また、おいしく安全に給食を提供するために心がけていること等、栄養教諭や調理師さんたちの思いが子どもたちにも伝わり、大変よかった。

・担任が行う読み聞かせはこういった機会でないとなかなかなかったため、児童たちは親しみやすい形で、食についての学びや関心を高めることができた。

学校名	鶴岡市立鶴岡第四中学校
実施期間	令和６年 11 月～令和７年１月

【地域と連携】

○PTA 教育講演会「社会を変えよう！地方から起こす食のイノベーション」

鶴岡食文化創造都市推進協議会事業推進員の小野愛美さんを講師としてお招きし、「社会を変えよう！地方から起こす食のイノベーション」という題目で講演会を行った。全校生徒に加え、教職員や保護者の方々も講演に参加し、「ユネスコ食文化創造都市“つるおか”」や「鶴岡の食産業」についての考えを深めた。また、講演会のスライド資料を図書室に掲示し「復習コーナー」として常設することで生徒が図書室を通りがかる際にいつでも講演会の内容を振り返ることができるようにした。

◎成果

今年度は鶴岡の食文化に関する講演会を実施し、全校生が参加した。食に携わる仕事をしている方から生活している地域の食についてのお話を聞くことができ、興味関心を高めることができた。

学校名	鶴岡市立渡前小学校
実施期間	令和６年 12 月２日（月）～12 月６日（金）

【地域と連携】

○山形大学教授の講話

山形大学農学部浦川教授から庄内スマートテロワール（農と食を地域の中で循環させ、持続可能な食糧自給をめざす取組み）や地産地消、消費者としてできることについての講話を聞き、給食でスマートテロワール商品の納豆を食べた。

◎成果

山形大学教授のお話では食料自給率、地産地消の話だけでなく、スマートテロワールという新しい概念に触れることで、生産者の方の思いだけでなく、消費者としてできることについて考える機会となった。また、実際にスマートテロワール納豆を給食で食べることで、消費者としての当事者意識を持つことにもつながった。

学校名	酒田市立松原小学校
実施期間	令和６年 11 月 19 日（火）～11 月 29 日（金）

【委員会活動・学校給食の充実】

○図書委員会との連携による「図書給食」の提供

図書委員会による「読書祭り」が、11 月 19 日（火）～12 月６日（金）の期間実施のため、「心を育む給食週間」期間中には、２回に分けて本に出てくる料理を給食として提供する「図書給食」を実施した。（「読書祭り」期間中には、３回提供した。）提供した給食は、図書委員が選んだ絵本と１年生の教科書から、栄養教諭が３品を厳選した。図書給食提供日当日（学級によっては前日）には、図書委員や図書専門員による読み聞かせ動画を各学級にて視聴した。

（図書給食）

◎成果

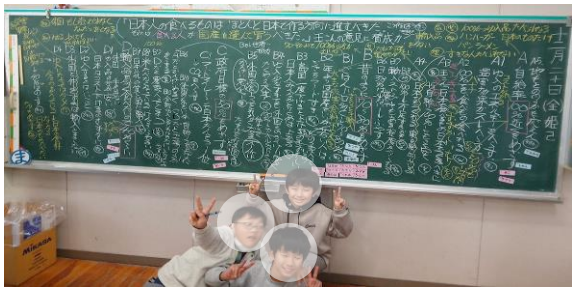
児童たちは、実際に絵本で見た料理が給食に出てくることをとても楽しみにしており、提供された時には、絵本の内容を振り返りながら食べている様子が見られた。通常よりもその料理自体に興味を持っている様子だった。好きなものだけでなく、さまざまな料理にも興味が持てるよう、今後も取組みを工夫していきたい。

学校名	鶴岡市立京田小学校
実施期間	令和６年５月 10 日（金）～12 月 25 日（水）

【教科と連携】

〇社会科の学習「米作りがさかんな庄内平野」「これからの食料生産」

社会科の学習「米作りがさかんな庄内平野」「これからの食料生産」の単元で、最後に食料自給率低下の問題を扱い、ある若者の意見「日本人が食べる物は、全部日本で作るべきだ。それには消費者が高くても日本産を買うべきだ」に対してどう思うか？という論題で討論会を行った。児童たちの意見は次のように分かれ、活発な議論が交わされた。



A.　自給率 100％近くをめざす・・・４人

B.　昔のように自給率 70～80％をめざす・・・18 人

C.　政府目標の自給率 50％をめざす・・・３人

D.　輸入品を多く食べたいので自給率 40％ぐらいでいい ・・・４人

その中で、「今は、日本の農家が減っている。このままだと、日本の農家がもっと減って、日本の食料がなくなってしまう。やはり、日本の食料を食べたい。」「外国からの輸入をやめて、日本産の食料を食べるということは、日本の農家を応援することになるからだ。」「外国からの輸入に頼っていると、外国が売ってくれなくなることがあるからだ。」「異常気象による自然災害で世界中で食料不足になるときがくる。だから、今のうちに食料自給率を上げておいた方がいい。輸入に頼ってはだめだ。」というように、何も考えずにおいしいものを好きなように食べるのではなく、作る農家さんのこと、地球環境のこと、国際関係のことを考えて、産地で選ぶなど、食生活を見直していくということが多く語られた。また、この討論会を踏まえて各自意見文を作成し、それを授業参観で発表し、保護者へも伝える活動も行った。

◎成果

社会科で庄内平野の米作りや食料自給率について学習し、総合的な学習で米作りを実践し、感謝する会を開いたことで、食や農業に対する感謝の気持ちや、これからも庄内平野の農業、農作物を守っていきたいという気持ち、消費者として食べる物をよく考えて選ぶ、食べることで生産者を応援する気持ちを持つことができた。

学校名	県立村山特別支援学校
実施期間	令和６年 12 月２日（月）～12 月６日（金）

【制作活動】

〇「いろいろな食べ物を食べよう」

「いろいろな食べ物を食べよう」というねらいで、赤・黄・緑の紙に食材の写真を貼る掲示物を用意し、教員や友達と一緒に楽しみながら写真シールを貼る活動を行った。

◎成果

児童生徒は、肉、野菜、デザートなどの食材の写真に興味をもって見入っていた。端的な言葉やイラスト、写真の活用が効果的だった。赤・黄・緑の紙に、教員や友達と一緒に何枚も写真シールを貼ったり、学部を超えて同じものに向かう楽しさを味わったりすることで、よりテーマに関心を持つことができた。

学校名	国立大学法人山形大学附属小学校
実施期間	令和６年 12 月９日（月）～12 月 13 日（金）

【学校給食の充実】

〇調理員と一緒に献立作成

本校調理員を対象に「寒い冬を元気に乗り切るために児童たちにおすすめしたい献立」についてアンケートを実施し、その献立を一週間にわたり提供した。給食時間の放送では、献立を考えた調理員の紹介や児童たちへのメッセージを日替わりで紹介した。

また、調理員の仕事の様子などをまとめた動画を作成しGoogleclassroom で配信し、各学級で視聴できるようにした。

【献立】

月曜日：ごはん、春雨スープ、肉焼売、八宝菜、牛乳

火曜日：食パン、ミネストローネ、レモンバジルナゲット、ツナサラダ、アプリコットジャム、牛乳

水曜日：ビビンバ丼、コーンサラダ、マスカットゼリー、牛乳

木曜日：ごはん、どんがら汁風、五目野菜肉団子、野菜の生姜醤油炒め、牛乳

金曜日：中華丼、高野豆腐入りサラダ、はちみつレモンゼリー、牛乳

◎成果

「〇〇さん（調理員）のおすすめ献立」と紹介することで、子どもたちが作り手をより身近に感じることにつながったと同時に、調理員自身のモチベーション向上にも効果が見られた。